

1 日 時 平成22年7月26日（月）午後1時半～3時半

2 場 所 生涯学習センター

3 出席者（敬称略）

（1）委員14名

加藤 佑子、西勝 義恵、坂本 明美、澤井 幸子、設楽 厚子、芝 喜久子、  
白井 紀子、鈴木 映子、寺谷 弘壬、奈良 覚、平形 芳郎、比留間 一磨、  
三宅 昭、山内 啓司

※野本委員は欠席。

（2）職員4名

澁谷生涯学習スポーツ課長

山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹

市ノ川企画係長、大木

※齋田文化スポーツ部長は欠席。

4 開 会

・課長より挨拶（割愛）

5 連絡・報告事項

（1）配布資料の確認

（2）東京都市社会教育委員連絡協議会 第5ブロック研修会の報告について

➡ 7月8日に第5ブロック研修会が武蔵野市であり、会長・副会長・市ノ川係長で参加してきた。その場で、今年度の第5ブロック研修会事業計画が話題になり、それをまとめたのが、そちらの「ブロック研修会事業計画書」です。開催日時が平成22年10月2日午後2時から開催場所が、武蔵野スイングホール11階レインボーサロン武蔵境駅北口徒歩1・2分の場所です。今回のテーマにつきましては、家庭・学校・地域との連携事例から地域教育の未来を探るということで、事例発表を武蔵野市・調布市・小金井市の3市で発表して頂くこととなった。昨年、府中市と狛江市と三鷹市がやり、ちょうど交代というかたちになる。その後、ディスカッションをした後に懇親会を行う予定になっている。

■ この事業計画書の通り、10月2日（土）から、研修ディスカッションの時に、ワールドカフェによる討議というかたちを取りたいという話だった。お茶とケーキが出て、どういうようになるのかわからないが、いくつかのテーブルを置いて、そのテーブルでお茶を飲みながらまた移動して、移動したところで話し合いをする。メンバーが色々変われるとの事だった。お茶を頂きながら和やかに意見交換のできるような雰囲気を作っ

て下さるとの事だった。ですからどうぞ大勢の方のご参加をお願いしたいという話だった。事例発表もかなり具体的な部分で「むさしのジャボリー」とか「調布っ子夢会議」「青少年のための科学の祭典」を小金井市が大題的にやっているが、その中に社会教育がどのように関わっていくのかというお話も出てくるかと思うので、是非ご参加頂けたらと思う。また出欠のご連絡がありましたら、宜しくご協力して頂きたいと思う。それでは、第5ブロック研修会について何かご質問等あるか。また何かありましたら後ほど聞いていただきたい。

### (3) 社会教育委員連絡協議会理事会の報告について

- 資料を付けて頂いた。この第1回理事会次第の方をご覧頂きながらお聞き頂けたらと思う。先だって、武蔵村山市民会館で行なわれた。報告事項としては、今までの間のものだが、全国社会教育委員会連合総会というのは、既に5月に終わっているもので、その報告があった。2番目の平成22年度東京都市町村社会教育連絡協議会役員等についてこれは、この資料1部2ページに書いてあるが、今年度の第5ブロックは幹事市は、武蔵野市で、10月に武蔵野市でブロック研修会を行うが、武蔵野市の菊池部長がブロック会長として役員として参加している。それと3の平成22年度東京都市町村社会教育連絡協議会事業日程については、資料1の7ページを見ていただくとよく分かるが、ブロック研修会を全第5ブロックの中で10月、11月に各ブロック幹事市が幹事で行われる。第5ブロックは、先程報告した、10月2日武蔵野スイングホールで行われるので宜しくお願したいと思う。平成23年度定期総会4月16日(土)武蔵村山市民会館である。これは、全員が対象になると思うので、また日程調整等をお願い頂けたらと思うので宜しくお願したい。4番目の平成22年度第52回全国社会教育研究大会並びに、第41回関東甲信越静社会教育研究大会についてですが、全国社会教育研究大会は、福島郡山で10月28・29日に行われる。これは、先ほど資料を添付していますので宜しくお願したいと思う。申込み締切りは、8月20日となっている。それから、前回みなさんの方に書類が、きていると思うが、第41回関東甲信越静社会教育研究大会の方は11月26・27日で、これは杉並区の社会教育センターで行われるので、申込みの程お願したいと思う。これは、9月15日が締切りとなっている。また事務局の方から後程、説明があると思うが、宜しくお願致したい。それと社会教育委員研修会についてだが、日程が調整出来ていないということで、決定次第ご連絡します。協議事項に入りまして、22年度のブロック研修会及び交流大会方式についてという項目なのですが、資料1の8ページをご覧になって頂きたいと思う。5ブロック全部の研修が記載されているが、※印がある2番の立川市と3番町田市の2市がブロック研修会を関東甲信越の分科会として出させて頂きたいとのことで、提案がありまして承認された。それと協議事項の(2)ですが、全国社会教育委員連合の社会教育委員の表彰候補の推

薦の項目があり、各市から候補が沢山出されたのですが、委員歴が一番長いということで、町田市の●●さんが全国に推薦されることになった。

- これ一人だけか。
- はい。13年11ヶ月という。町田市は、去年もそうだったらしいが、皆さんの委員歴が長い町なので、規定に従うとそうになっていくようになる。それと、その他なのですが、平成23年来年全国大会が京都で9月20～22日という一応予定を発表されている。一応理事会報告は、それだけなのですが後は、各自読んで頂ければと思う。

#### (4) その他

- ➡ 平和のつどい映画会のチラシですが、私ども、生涯学習スポーツ課企画係で、毎年平和の啓発事業ということで8月に行っている。こちらの「ラストゲーム」という映画だが、今回こちらの映画監督さんの方がお見えになり、どういう気持ちでこの戦争の映画を作ったのかをお話し頂いて、その前に小中学生から平和に関しての想いの詩を募集しております、書いた本人に朗読して頂いて、記念品をお渡しすることになっている。場所は、グリーンプラザ けやきホール8月21日(土)に開催するので、宜しくお願いしたい。あと平和展につきましては、これも毎年行っているが、8月12日から15日の4日間ルミエール府中の第1第2会議室で、今年は2月に東京空襲資料展をやったが、そこで展示できなかった、東京空襲の遺品やパネルを今回は、第2回ということで開催する。それと8月20日から31日までこちらは、学習センターのアトリウムで「原爆と人間」のパネル展示をする。学習センターの開館時間帯で行っている。

## 6 協議事項

### (1) 最終答申の内容検討について

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨]            ■ : 委員            ➡ : 事務局

- ひとつ質問があります。平和啓発事業で文化スポーツ部の担当で、府中市に、手のひらに鳩がとまった平和都市宣言の記念碑は何処にあったか。
- ➡ 色んな所にある。
- 私の家の近くに現業事務所があり、2、3日前に通るかかったら、廃棄物の所にデーンと置いてあった。平和都市宣言を辞めたのかなと思った。
- ➡ 各施設に文化センターとかもそうだが、そういう所にはそこまでは、大きなモニュメントではなく、玄関の入口の所に飾ったり、全部の公園ではないが、一部の公園にもあ

る。基本的に市内の施設には、そういった物が何かしらあると思うが、再開発工事の関係で、一時的に撤去している所もあるが、一応置いてあるだけで、また使う可能性はある。

■ 審議事項に入ってまいりたいと思うが、確か前回の審議会では、重点施策の具体化に向けて、自由にご発言頂いて討議してきました。議事録が手元がないが、ファシリテーターについても、定義の共有化やファシリテーターの講座を開かれるのか。そこへ皆さんで参加して自分達も何かを感じとってきたら良いという話もあったように思う。また、夏祭りで各文化センターの夏祭りの様子も見られたりしていることと思う。今日も幅広くご発言頂き、最終答申に活かしていける発言を頂きたいと思うので、宜しく願いたい。

➡ 本日少し皆さんにご審議頂く中で参考になればと思い、こちらをコピーし、ホチキス止めしてある物をお配りさせて頂いたが、団塊世代・元気高齢者による地域活性化事業という団塊の世代の方々の活動した様々な地域化事業について、山村副主幹が出席しているので、説明をよろしくお願い致したい。

➡ 前回お話し頂いていると思うが、第2次推進計画重点施策というのでファシリテーターの育成事業、サポーター制度を設けている。今検討中・準備中ですが、平成22年度9月から11月になると思うが、明治大学の連携授業として、ファシリテーター養成講座及びサポーター養成講座を3ヶ月位で8回ずつ位できるかなと思っていて、ファシリテーター、日本語で言えば、地域での担い手、生涯学習の担い手なるが、担い手の必要性というものは、生涯学習の分野だけではなくもっと広くは、この団塊の世代それから高齢者、特に施策としては、高齢者支援課とか、そういう所で力を入れている事業です。またあの市民活動支援という、地域貢献やNPOとかの活動の方では、団塊の世代を活かし地域活動をやっている。東京都の方もこの様な形で主に高齢者支援や市民活動部門の担当で団塊世代・元気高齢者による地域活性化事業というのを進めている。

1枚開いて頂いて、平成27年(2015年)東京都の姿として、都民4人に1人が65歳以上の高齢者になるという、統計上の方で予測になっている。地域社会の変化としましては、約12%位は支援を必要としているけれども、同時に地域の共同体的な支え合い的な方は、そういった機能が低下していく傾向にあるという分析がなされている。12%は、支援を必要としているお年寄りになってしまうが、逆に言えば80%以上は、元気な高齢者。介護保険の介護も少ない高齢者ということで、その高齢者の方々、特に団塊の世代の方々に、地域の期待が大きくなってきて又、同時にそういった方々の地域活動への高い参加意欲を示している。もう既に活動されている方とかこれから活動したい方を合わせると65%位の方が、そういう気持ちを持っている。豊かな地域資源の存

在の活動で、その中でも東京都というのは、NPOやボランティアが非常に活発で、これを活かさない手はないということで、全国的にも非常に高いレベルでやっている。

次のページにいくと、地域活性化に向けた現状と課題ということで、地域の社会構造の変化や都市部において急速に拡大して高齢化が進む中、一人暮らし高齢者で生活に支障をきたす方々を社会全体で支える体制の強化が求められている。その中に意欲と参加のギャップがあると、活動内容によって異なる参加のハードルがあって、その辺が非常に課題になってくるというような事がある。

東京都の場合は、現在活力に溢れている高齢者がいるのですが、その多様な地域資源を段々活かしていくアプローチが必要で、その第1ステップ・第2ステップが例えば、我々の方で、重点課題として持っていくところの、ファシリテーターとか地域の担い手、サポーターをいかにして、動機付けて、それでまた実際にボランティアとかNPOとかを立ち上げて頂いて、実際の現場で参加して頂けるようなシステムをいかにして作っていくかというところが、2枚目の第1ステップ・第2ステップのところになるかと思う。

第1ステップの方は、主に地域デビューのすすめということで、行政課題としては、気運の醸成とか、きっかけづくり・場所づくりということになる。今回我々は、重点課題の最初にファシリテーター養成講座とかサポーター講座とかあるが、それはあくまでもきっかけ作り過ぎないということ。それが、第2ステップの方である様に、実際に地域社会の担い手として、地域を支える存在になって頂きたい。その為には、コーディネーター的な役割、それからマッチング機能それから企業とのマッチング、大学等の連携を含めて、いかにそういう場所を作っていくか、いかにマッチングをしていくか、いかに具体的に地域の参加の中で、生涯学習サポーター・生涯学習ファシリテーターが活躍できるような仕組みを作っていくかということが、重要になるのだという資料です。

実際に、団塊世代の活性化事業の区市町村事例発表会とあるが、実際に例えば、人材育成においては、足立区の方から、コミュニティービジネス開発支援の発表。日野市の方から、高齢者のふれあいサロン事業についての発表。それから、三鷹いきいきプラス事務局の方から、三鷹市高齢者社会活動マッチング推進事業の発表。それから、江東区福祉の方から、シニア世代地域活動あと押し事業。稲城市の方から、介護支援ボランティア制度。具体的な話があった。これは、あくまでも高齢者支援、市民活動ということで、生涯学習とは直接関係ないが、実際聞いていると、近い関わりがあると思ったので、参考資料として今度の具体化に向けての議論のひとつの材料にして頂ければと思う。

- ありがとうございます。貴重な話を聞くことができた。確かに福祉の方の事業、それから福祉に関係なく高齢者事業、社会教育・生涯学習はクロスしている部分もたくさん出てくると思う。しくみを作っていくのは、社会教育なのかと思う。今の話を聞いて、いくつか質問してみたいか。

■ 資料で地域社会の変化のグラフで、「地域の支え合い機能の低下」左から3番目の他人の関与を歓迎しない人の増加と書いてあるが、この数字は、歴史上ずっと同じ%位あるのか。他人の関与を歓迎しない人は、これぐらいいるのか。38%ですが、どの時代でもこれ位あるのか。

■ どの時代でもこれくらいあるのかは、わからないが、実際に私は民生委員で回っているが、一人で静かに暮らしたいという方が割合多い。女性でも男性でも。家庭にずっといる方は、地域でお友達とか仲間がいるが、お仕事していて、ある日、年金で家に入ると、その年金で充分暮らしているのに、福祉の手は要らない。かえって訪問したり、誰かが関与したりすると、うるさいという方が割合思っていたより多い。男女問わずだが、どちらかというとなりの方が多。その方がうんと高齢になった時に1番困るケースになる。数字的には、わからないが、確かに社会とは断絶したいという方が多。

話は変わるが、今回、災害時の医療情報キットを配布している。TVに放映されるそうだが、災害時よりも、むしろ普段、何事も無ければ良いが、一人かあるいは高齢者の世帯とか障害者世帯は、その方がもし何か倒れたとか不慮の事が、あった場合のキットが必要かもしれない。筒状の入れ物がある。その中に個人情報になるので、自分で抱き込んで写真から何から入れて、そしてどんな医療を受けているのか、連絡先を入れて置く。それを配布して新たに、今まで私達と交流がなかったお年寄り発見したりする事もある。確かにそういうタイプの方は、社会とは距離を置きたいという方は、申し込まれるというケースが多い。数字的には分からないが、いつの時代でもいらっしやるのではない。そして、急死したり孤独死したり。

■ 結構今回の暑さで部屋の中で死んでいたというのは随分いるみたいですね。

■ 市では、災害時の支援として色んな事をされたいとのことで、弱者の登録というのを推進していますよね。その登録を推進しているが、何%位登録者がいるのか。

■ 回答率は、はっきり覚えてないが60%位だと思う。登録していない方達は、包括支援センターというところで回っているとは聞いている。

■ 包括支援センターで登録しているということになっているのか。

■ 包括支援センターは、警察とか色んなところに情報がいく様になっている。

■ 医療情報キットは、冷蔵庫に入れるキット。

■ そうです。それを申し込まない方が割合多。ご夫婦でも、片方は申し込んでいて、ご主人は申し込まないとかある。

■ 訪問して、強制的に入れていたとか。

■ ではない。一応、申し込み制度です。

■ 何歳からか。

- 75歳以上のみ世帯。障害者世帯とか、昼間一人であろうという世帯とか5項目ある。即、役立っているらしい。災害時っていうのは言い訳で、多分、私が市の方で考えている事には、普段の救急の時に情報がすぐ分かる。結局あの具体的に言えば、それがあのお家は、ドアの裏側にピンクのワッペンが貼られている。それで、救急隊が入った場合のこのお宅には、この情報があるのが分かる。冷蔵庫を開けますと、個人情報が入っている。
- それをドアの外側に貼られると。
- 外ではない。ドアの内側。もしかして、間違っ外に貼ってしまうかもしれないが、何回も口を酸っぱくして言っている。そうでないとこの家は、こういう家だと外からマークされて妙な人が来るからと話しをしてお配りしている。
- 手厚くそういう御苦労は、福祉の方でなさっていますね。
- 一時、府中市でも、子供の人とか年寄りとか一人暮らしとか、郵便受けにマークが付けられて泥棒が割と入った時期があった。消すようにと通達もあったが、元に戻ると、3番目は、2番とも関係しているし、要するに付き合いたくないと言えば付き合いがないし、1番とも関係あるので、1・2・3みんなチェックしている人は、共通していると思うのですが、これは、増えている。確実に。今の若い人達が高齢者になったらもっと増えると思う。
- ➔ 同じ関係で、似たような質問がある。コピーでお配りしたが、隣近所との望ましい付き合いは浅い傾向にある。近隣関係は希薄になっている。これが、例年で比較しているので、ちょっと近い部分がある。
- これは、どの様な事をしてしてもダメなのか。
- ダメです。それこそ個人のプライバシーに関わってきてしまうので、嫌だと言われたらそれ以上踏み入れない。それで何となく私達は、外から見守っている。しょうがない。個人の自由だから、それこそ。
- 奥さんだけでも繋がっておけば。
- 生涯独身の方が多い。それから、親一人子一人の暮らし方が多くなっている。
- 他に友達があるとか職場の他にあるとかいうのではない。親も子も一人ずつ。他に働いてなくて、ある意味では今福祉がある程度あるので、最低の生活ができるのでそういう生活をしておられる。男の人が例えば、府中から東京にバリバリ働いていて地域と疎遠になっているというのではない。感じとしては。親と子が依存しあって、ほとんど周囲と接触していないというのは府中市にはかなりある。
- それと、結婚しない子供を持つ親というのは、割と関わりたがらない。
- もし、府中市にお金があって、やったら非常に面白い事になるのではないかというアイデアがあるが、私達が子供の頃は、夏のこの季節に、縁台を家の前に出して、そこ

で蚊取り線香を焚いたりして、将棋やったり碁をやったり、縁台、つまり座る場所があると、誰かが通りかかった人が声をかけるというのが、自然におこったが、今は、自動車が走るから、道には、そんな幅がない所もあるが、府中市で希望する様な家庭だけでもというか、自治会だけでも、好きなだけ提供するというのはどうか。廃プラスチックを利用して、組み立てが出来る様なやつで、4～5人座れる様なベンチで、背もたれはいらない。

- すいません。水を差すようで申し訳ないが、ホームレスが増えるのではないか。
- そんなことはない。使わない時は、足を外してどっか自分の家にしまって置けばいい。そういう足が外せない様な物だと、今どきの家はもう置く場所がありませんからね。
- 府中公園に、東屋があったのですが、ホームレスが来るので石を置いて、そして最後に東屋が無くなった。それは、社会の発展ということで、こうしないと難しい。理想的にやっても。
- ただきつと今、坂本さんが言っていたのが、家の前というのは。
- 自分の家の前。自分のベンチとして、自分の縁台として置く。
- 府中市には、文化センターが沢山ありますね。そこで特に高齢の方々は、一日居られるような施設がありますよね。そこを使っているのが、やはり一部の方だから、使う人は、毎日使って毎日の様に利用しているが、行けば良いのにとする人は行かない。ですから関わりたくないという人格を作っている。だからこそ、やっぱりみんなが、府中に生活できて良かったという生涯を過ぎて欲しいという気持ちしかないので、その為にどうしたら良いのかということは今みなさんで、団体の話もありましたが、もう少し自治会と一緒にやっていくというのが一番また具体的で。入らない人もいると思うが、少しでもプラスになることを考えていきたいと思う。
- ●●委員がおっしゃるように、自分がどうしたいのかとなってくると思う。私も今住んでいる自分の家で孫と娘と住んでいるが、みんなお茶を飲みに寄せたいが、何となく娘が、きちんとしているところに、寄せてきたらきたで気を使うし、もし、可能ならば空き家を市でちょっと借りてもらって、自分達で運営しながら、健全な人達が色々な勉強をしたりお料理を作ったり、そんなような拠り所を作って頂いたら、私は率先してやりたいというのは、ひとつある。だから、結構住宅地で一人住まいとか空き家が増えてきているので、運用していく方法は、やっぱり自由に一人住まいのところに来て、その一人住まいの所に色々なお世話をすると、息子さん達があまり関わらないでくれとか言うそうです。だから、その家から出て、みんなで何かするという事で、拠り所づくりということで考えて頂けたら良いのかなと思っている。

- 確かに府中には、ルミエールや文化センターなどが色々あるが、年を取ってしまうと近くの文化センターに行くのも大変だと、人は最終的には、隣組単位、近い単位でそういう受け入れ場所を作ってあげると非常に効果がある気がする。
- 今の自治会で公会堂は少ない。だからやるとすれば、文化センターを使う。
- やっぱりすぐ歩いて行けるような、高齢者の街づくりという観点からもそのことを市が管理していったら良いかと思う。
- 15年程前に中国へ研修に行ったが、託老所という名前でやっぱり普通のお家で、みなさん若い人は、働きに行ってしまうので、残っているのが小さい子供とお爺さん、お婆さんの50代以上の人達ですが、みんな普通のお家を託老所という名前にして、きちんと将棋やったり碁をやったり踊ったりしながら一日過ごして、また夕方家族の所に帰って行くというのを見て、早速、我が家もしたいと、すぐその気になってしまう方なので、いつかどっちか一人になってから、託老所にしたいと15、6年位前に自分で考えた。全部バリアフリーにして、誰にでもどうぞというふうにしたい。そういう今も空き家があるとか、市で少しバリアフリーの補助があったり、色んな消防法の色んな問題があるが、クリア出来ることはクリアして行きながら、本当に年を取ってもここに居て良かったという街づくりをしていけたらいいのではないかな。希望ですが。
- みなさんのお話を伺って本当に寂しいと思いました。どうしてこんな風にして近所付き合いが段々に出来なくなるのか。私の住んでいる地域は、大体農家をしていて、今でも女性部の会員のみinnで公園のお掃除をしたり廃品回収をしたりしている。70歳以上の方に500円でお料理を作ってあげるとか年に2回やっている。そういう時は、やっぱり昔から住んでいる方にお会いしたいからと足が悪くなくても一生懸命通って来る。呼びかけとかそういう事で、どうしていますかと、機嫌を伺うなどしている。声を掛けるということが非常に大事だと思う。私達は、少し公園のお掃除をして、ちょっとお茶を飲みながら情報交換をしている。後になってあの人が、亡くなったとか、そういう人達が集まった時、あの方の病気はこうだったとかそういう情報交換ができる。そういう呼びかけで、地域で声かけても色々難しいとかではなく、男性の方も何かのきっかけで社会に出たいと思っても、なかなか出来ないと思う。女の人は気軽に出来て、自分の趣味を活かしながら、文化センターに行って色々な稽古をしているので、自分の旦那さんに良いから入らないかと言うと、「俺は、いいよ。」とかそういう感じが多いらしい。それを一歩引出して、地域で色々な企画をたくさん作ったから、来たらどうかという呼び掛けをしても、なかなか足を運ばない。やっぱり、うちのも自治会館も良いものがありますし、文化センターでお祖母ちゃん達が自分達でお料理作っては頂いたり、お風呂に入ったり、そういう光景をみると女性が多い。なかなか男性の方が、足を運ばない。女の人は気軽にコミュニケーションがとりやすいと思う。

- 私達の自治会で、第三金曜日の13時～15時までの2時間。シニアの会というものをやっていて、これは独身といいますか要するに一人になった高齢者だけを対象にした集まりです。色んな事をやっている。色んな団体から健康相談とか来てくれるし、自治会の中で色んな活動している、文化団体は唄を歌ったり踊ったり、私は、いつもカメラマンをしていて引っ張り出されてこの一年以上を観察してきたが、男性は、1/3位で毎回30名位参加している。400所帯で一人住まいの人は、もっともっと大勢いらっしやるが、来ない人はもう来ない。いくら声をかけても担当者が言っても来ない。足の具合が悪いとか言って。しょうがないが、ヨチヨチ歩きでも10分も掛からずに自治会館に集まれるので、一度いつでも結構です。第三金曜日ご覧になったら案外面白い物が見られると思う。自治会館とか公会堂とかあっても、年寄りが気軽に集まるという事が今はもう難しい。うちの自治会館の場合は、朝・昼・晩、部屋がいくつかあるが、全部だめです。だから、本当に好きな人と好きなだけ時間を気にせずに話をするという場所ではなくなっている。催し物に参加しない限り行っても駄目です。おそらく他の地域の公会堂・文化センターもなんかもそうだと思う。
- 一番私が今悲しく思うのは、第一線で働いている40代50代の結婚していない男性の方が、ご自分のお父さん・お母さんが病気になった時、介護するために会社を辞めている方が非常に多くて、最終的にどうしようもなくなると、よく報道されている。そういうのを何とか出来ないのかと思う。結局、自分で働いていないのでお金も入らないし、介護にかかる事で非常にお気の毒な男性の方が多い。
- マッチングってありますよね。テーマにありましたけど、マッチングってどういう様な事をやるのか。高齢者と高齢者が紹介し合うのか。
- ➡ 例えば、三鷹いきいきプラスの場合は、インターネットを活用したマッチング事業をやっている。府中でもリーダーバンクがあるが、それだけでは駄目で、依頼する人と提供する人の間に事務局が間に入ったりして、紹介するなど、例えば、事務局がメール配信をして依頼を紹介して間に立つとか、交流会を実施して会員の人の顔が見えるようにすることで、それが上手くいくのだと思う。ただそれを表示して、好きな人は、そこに応募して下さい、ということだけだと、なかなか前へ進まない。そこで役に立つのが、生涯学習とか楽しい人達の楽しい雰囲気づくりとか、そういうものに乗っけると、一見福祉的な一見大変そうな仕事でも上手くいくと思う。
- 難しいですね。若い人のマッチングをやって上手くいかない事もある。

私が住んでいる近くにある大きな公園は、お母さんが小さい子供を連れて、そして、お婆さんも居て、そこでみんな食事をしている。府中市は良いなと思ったが、男の人はほとんど誰もいない。若い人が一人か二人で男の人は、サッカーやったり、テニスやったりしているが、3世代位が、細かい所でみんな涼みながら、それぞれ自然に付き合え

るのではないかと思う。府中市は、良い街を提供してあげているなど感心している。こういう事も可能ですよね。室内だけではなく、室外で自然に。

- 地域のお話しが表に出てきている。
- 団体構成も変わってきて、既に社会現象として、働く場所がない。それと同時に私達は、色々と指導を活躍出来る場所を提供していると思っっているのですが、実際そういうのをつめた時にどうするのかと、収入が少しでも欲しい。ただ単に働くのではなく、収入のあるボランティアみたいな事をやっていきたいということ。実際にそれを探すととなると難しい問題がある。ボランティア的なその内容であることが、収入があるものに切り替えていかないといけない。そういうことにすると利用者からお金を頂く、利用者ということは、その情報をもろう方が、例えば1コインみたいに払ってもらう。今の主婦層については、最近も社会状況は、その1コインでさえも出せないという主婦がいる。若いお母さんがいたが、しっかりと旦那さんが握って、自分の中から小遣いをもろう、色んな所に参加したくても、お金を出してまで参加するような事は出来ない。社会のシステムを変えないと進展するのが難しい。特に今、集合住宅が増えている。高層住宅が、そうすると横の関係がほとんど手薄になる。どっかで縁台を設けても、縁台まで届かない。現実的に。部分的に一つ一つ拾い出して、解決していかないと難しい。
- 府中市の場合、高層住宅が(規制) どんどん建っても平気なのか。しょうがないのか。緑の町がなく、全部甲州街道はマンションだらけ。
  - ➡ 今、高さ制限の規則条例があって、25メートル。場所によってだが、一応高さは抑える様な行政の指導でやっているが、なかなか難しい。
- 府中は良い所だから、みんな府中に来る。
  - ➡ 業者は土地が高額で販売価格は、安くしないと駄目だということで個数を増やす為に上に上げていくというかたちで、高層の計画を立ててしまう。
- すごく、その割に商店街とか難しい。現実的に。お店は中小企業や個人的なお店は、みんな家賃が払えないで、どんどん辞めていく。寂しい。
- 私どもの生涯学習審議会が一番大きな目標と関係があるような事だと思うが、NPO活動とかボランティア活動を府中市が一生懸命その応援をして盛んになると、本来的には、ボランティアというのは、お金を貰わなくて働く人ですよね。こういう人達が頑張り過ぎると、本来はそのサービスをお金で買っていた人が買わなくなる。あるいは、そのサービスを今までお金を取って提供した企業が駄目になるということで、かえって就職のチャンスを潰してしまうのではないか。
- 活動要件として、ボランティア活動のその質を今言っているわけですよ。お金に換算してのことではなくて、ボランティア活動の質をみなさんに提供したい。だけど実際にかかる費用とかありますよね。それをみなさんの善意によって今は、評価されていく

らかでも払うというように成りつつある。市はそういうふうな考え方に変えて、今までは常に何でもかんでも、みんなボランティアだから無償でやれという意識だったが、それが段々変わり、助成金を出してというような。そういう点から言うと、NPO団体もそうだが、社会教育団体もこれも実際助成を受けているが、それと同じ様に段々助成を受けながら、中身を充実させていたら、ひとつの商売ではないが、コミュニティービジネスの形に発展して、ひとつの店になる。それが事業化していくというか、非常に良い道がある。それを我々が推進していきたいと、ソーシャルビジネスという言い方をしている。

- つまりソーシャルビジネスの中には、お金をもらわずに仕事をしている人と給料をもらって仕事をする人がいても構わないということか。
- そういうこと。それは、両方とも存在する価値があると思う。
- 福祉協議会で、毎回送られてきているが、たまたま世話人会というところに所属しているので、あそこのボランティアの受給と受ける側、頼む側の情報を全部持っている。そういう意識で生涯学習の事務局的なものがあり、受ける側と求める側を交通整理するような機械事務局を持っていけば、社会教育の基本的な土台作りをしていけば、少し肉付けして良い方向に、事務局で有償で働く人もいれば、自己申告で登録したり、今人材バンクでやって登録していたと思うが、それをみんなに分かる様な組織にしていけば、福祉とこっちの情報とそれこそさっきのマッチングではないが、福祉と生涯学習のマッチングで何かやろうとか、こっちはお話しが終わったら、映画を観るとか、お互いにマチマチではなくて、そういう根底を作り出す初めての試みとして、早々にやった方が良いかなと思う。
- 情報を提供するにしても、今、福祉は福祉とか生涯学習は生涯学習というのではなくて、それを上手く繋げるような。
- 今はそうだが、将来的には、マッチングするようにしたら、いずれみんな歳を取っていくので、子供も大人も福祉に関係あるから。
- ファシリテーターのことだが、今度11月からファシリテーターの講座を開くとのことだが、その講座は1ステップということでもって、確実に抑制していくかたちではなくて、始めの前半回でかたちを考えていくということだが、ファシリテーターをいつ頃までに確立していくのか。
- ➔ 計画書で言えば、今の第2次推進計画の間に確立したいと思っているので、ここで研修をやって育った人が全員なってくれたらと思っている。それをやっていく中で体制を含めて、出来たらそこにどっか行って頂いて、最終的には、次の第3次になった頃には全て確立されて次に進むかたちにしたいと思っている。

- 前に社会教育主事の方を早めに確保しておいて、早い段階でファシリテーターみたいなものの存在を明らかにして、それを利用する人は、なるべく早い段階でやっていく必要があるのではないかと感じる。何年先かは、分からないので、走り出していく事が必要ではないのか。
- 5ページに「おせっかい焼き」というのがあるが、私は今、南白糸台小学校に行きまして、4つの地域がある。4つの地域の中で、やはりおせっかい焼きさんが動いている地域は強い。例えば、車返しとか新しい団地とか、地域と古い地域に白糸台の車返団地の地域があるが、そこへ、おせっかいの方が、どんどん溢れている。だから、青年会も入っているし、どんど焼きにも協力している。尚且つ、昨年度から年3回地域の方が、学校のパトロールに80人位出ている。そういうものの組織団体を作ってしまった。それもおせっかい焼きではないかと思うし、もう一つは、東部白糸台に、子供の為に毎週土曜日に公民館を開放して、児童委員会というものがある。子供の為の場所を提供してお世話をしている。それもやっぱりそういう、おせっかいの方がいて、そういう活動が盛んに行われている。私が言いたいのは、どの地域にもそういうおせっかい焼きさんが、例えば、ファシリテーターみたいな方がいると思うので、そういう活動している地域があるというところを、この生涯学習の方でそういう研修会を設けて、後押ししてあげるのが大事である。この様な事をすると盛んになるということを示してあげる。勇気づけることが大事だと思う。
- 福祉とか社会奉仕から入って、生涯学習に結び付けてというのは、非常に良いアイデアじゃないかと思う。最初からやっぱり生涯学習となってとっつきにくい感じを持たれるよりも、そういう地道な分野から、アドバイスをしていき、社会奉仕・福祉ということを重ねていっていろいろな人達との交流や学習意欲を引き出すことを心がけなければならない。
- またここに居る皆もおせっかい焼きさんにならないといけない。
- 車返しは、校長先生をやっていた方が、自治体のトップになって推進しているのですよね。そういう関係で結構指導力がありますし、皆さんも自治会の中で自分達が率先してやれる雰囲気をもっていることもありまして、そういうのを前提にファシリテーターを作り上げていく、ひとつのブロックかなと思っている。
- 自治会という内の中にそういう方達が、存在してらっしゃるのを知らないだけかもしれない。引っ張り出せるような何か。
- 必ずお祭り男みたいな、そういう人達を普段は、周りの重圧とか遠慮とかそういうもので、出て来れないこともあるので、のせて上げる。
- これは、既に報告があったかもしれないが、明治大学と一緒に府中市がなさるファシリテーター・サポーター養成講座というのは、どのような内容でやられるのか。

- ➡ 募集人数はそれぞれ30人。頭の方では、社会教育を進めていくにあたってのところは、共通なところですが、あとそれぞれのコースに別れて、サポーターの方は、コーチングの技術とかで、ファシリテーターの方は、地域のネットワーク作りについての課題についてで、具体的な方向を考えていくものです。
- 市の方では、どういう目安で参加者を選別するか、決めているのか。
- ➡ まだ募集をかけてみないと、どれぐらいの方が来て頂けるのか分からない。一番気にしているのが、誰も応募者がいないということなので、土曜日の午前中に設定を考えている。明治大学の講義の話の中で、ファシリテーターの担い手ということであれば、先々考えると、高齢者ばかりではないという、例えば、女性とか若い人も含めて来れる時間帯ということで、土曜日なら大丈夫かと、土曜日の午前で受けてもらって午後は使えるように考えれば、8回なので2週間に1回ずつ来て頂けると、結構それなりの動機が必要だと思う。ちゃんとしっかり学ぼうというような人を募集することになる。またその人達にとって魅力があるような、一応明治大学の方では、コミュニティービジネスとか、アジア総合の関係とか、そういう専門的な先生がいらっしゃるの、そういう人達に来てもらって、実際に役に立てるようなイメージをなるべくして、魅力を付けた上で、募集をしたいと思っている。
- 是非とも、講義を見学できる様にして頂きたい。
- というか、参加して頂きたいです。
- 例えば、8回全部ちょっと厳しいという話であれば、委員として2回でも3回でも傍聴席というか、見学させて頂けたらいいと思う。
- ➡ もちろん細かくは出来ているのでチラシに載せますが、広報に載せて、一般の募集もした上で、最終的には抽選になっていくとは思いますが、全員が受けられないかもしれませんし、そういう団体の方々が多くなってしまってもいいかもしれません。
- でも、始めるのは、11月か。
- ➡ そうです。明治大学も正直な話し、色々手探りでやっていく。一回で全部完璧なものを出ると向こうも思っていないですし、やってみないとわからない。
- ➡ 卒業・終わった後に、どういう活躍の場を設定できるのか、それを今考えているところです。
- 具体化というところで。
- ファシリテーターの話の中で、今の話と繋がるのかと思うが、自分が何に協力出来るのかとか、何なら参加出来るのかということが、とても大事だと思う。その時にそれぞれの地域で、府中という地域で、もっと細かい各自治会をもっと身近な所など隣近所の人達のニーズとか、それぞれ街づくりや街の繋がり、人の繋がりを作ったりとか、特色のあることを既にやったりしていることもあると思うが、あまり活動していない所は、

お互いに繋がっていないから、なかなか見えない。具体的こんな町にしたいとかこんな繋がりにしたいとかを出せないと、やっぱり我々もどういうふうに関わってほしいとかが分かりにくい。それなりの地域の中にどんな特色ある地域活動とか、何かやって具体的に活動するものがないと、ただ集まって下さいというのは難しい。こういうような事をしてきたとか、この様な物が良いとか、事例みたいな特色のある事例がまずひとつ分からないと駄目だと思う。それから、こんなことをこれからの社会の事を考えた時に自分達が生きていた上で、街づくりとしての自分の街の隣近所の人々のこういう付き合い方をしたいというような要望を分かってもらわないと、そういう中でどの様に関われるのか、自分の地域に限定せず専門的なものを持っていけば、そういうものがある所に出かけていくということは、すれば良いだろうし、当然向かわなくてはいけないだろうし、その辺のきめ細かなニーズなり、実態というものを情報として把握するなり影響するなりということが、ひとつ必要なのだろうと思う。その時に、さっき言われたような成功事例というのが参考になると、こういう人はとてもみなさん助けてもらっているというような成功事例つまり、既にファシリテーターのような役割を演じている人達がいるし、自覚している人も自覚していない人もいると思うが、そういう人達をやっぱり発掘したり、そういうところに色々と勉強して行くとか、そういう機会を作ってあげるとか、そんな具体的な手立てみたいなのが、もう少し見えてくると方向性があるのかなと思う。そうすると当然、市として府中の街づくり・地域づくりをどんなふうにするのかというイメージももうはっきりさしてもらえると、そういう選択肢の組立が、次の一步を踏み出せるのではないかと気がする。それで資料がすごく参考になったが、やっぱりその府中の強みとか弱さを、そういったデータを踏まえて、今この数字の地域で、こういうものを是非広げて欲しい活動だということがあれば、紹介してもらったりするとすごく参考になる。それならこの次の一步が踏み出せるかたちになるのではないかと気がする。その辺でこの府中の今も地域の状況というのは、東京都の状況とほぼ同じぐらいの状況と捉えているのか。

- ➡ そうですね。ここにあるようなデータについては、府中のとさほど変わってはないと思う。ただ都心部の方に比べれば、東京の平均から比べると高齢化率は低い。
- 要するに、深刻度という点ではまだ余裕がある。ファシリテーターを育てるタイミングとして良い。
- マンション族が多い。結局、そういう方達が平均年齢を下げている。各地域・地区ですごく体質が違うということがあるので、その点を市はどう考えているのか。それから、先だって聞いたばかりだが、オレオレ詐欺に関わる人は、東京都では、府中市が第3位。東京都では、第3番目に見栄っ張り。その辺を考えていただいて、川沿いの方とこちらの方とかなり体質が違うと思う。というのは、私は、幸町ですが先ほどお話し致しまし

たが、災害時に助けて頂ける方を向こう3軒両隣を探して下さいという項目がある。絶対というとならと事をするとなら問題になってしまうので、探せる方だけということですが、それですらなかなか見つけにくい。断られたり、探せない。町会が建っても、市と協定を結ばないというところもあるので、そういう点も学習センター企画係でも結構御苦労が多いのではないのかなと思う。だから応募者がどういう目的で応募されたかとかを論文までいくと大変かもしれないが、そういうことまでしないと、実際にすぐには、かなり難しいのではないかなと思う。

- ありがとうございます。色々参考意見として抱えていきたいと思う。確かに受講した後の活動の場だとか、そういうこともやはり考えていかなければいけない。あとその人達が生きる場所が無かったら、受講した意味もないし、そういうことも審議会の中でどんな所でその方達が力が活かしていけるのかという部分も考えていけたならと思う。
- リーダーバンクを上手く活用すると、この中の生涯学習推進計画にあります。実際に今までの活躍として、利用はどの程度あるのか。
  - ➡ それが出来なかったから、今回サポーターという名称に変えて、4月から今3ヶ月経ちましたが、一番多い利用のは、PTA家庭教育学級の講師を探すのに使っていて、子育ての関係の講演をやって頂ける方がいる。
- 学校からの依頼か。
  - ➡ PTAからです。それぞれの学校のPTA。それぞれの担当者が様々な企画をして、それにあった講師を探すのにリーダーバンクを利用する。
- こういう学習計画の中で、そういう自分が活躍する所が全然ない。実態がそうだと思う。そのしくみを全体的にくずしても良いから、しくみを考えた方が良いと思う。その辺を審議した方が良いのかと思う。
- リーダーバンクというのは、私が理解しているのは、資格を持ったり、あるいは何か。
  - ➡ 資格とかはいらぬ。本人がこれを得意なのかもしれないと思ったら登録する。
- 需要が少ないのか。
  - ➡ 種目とかにもよると思う。先ほど言った様な、例えば子育ての話が出来るという方は、需要が多く、頻りに依頼が来るが、例えば手品を教えてくれるようなものは年に一回とか。それも個人に教えるわけにもいかなので、宴会芸で覚えたいから紹介してくれとか。
- 市でリーダーバンクというのが、活動しているのかわからないのか。例えば、そちらの方で活動をしているなら、そのノウハウをリーダーバンクをね。
  - ➡ 三鷹のいきいきプラスを見ますと、例えば、登録者数が358件、その内、自主的に登録された方が、238件で、事務局の方に依頼された方が106件で、実際にマッチング14件。その推移が平成14年度からするとマッチング実績は3倍。ただ登録者は、

2倍、いかにマッチングが大変かということ。こちらと違って、三鷹の場合は、NPOが間に入って常に努力をされているし、交流会もやっているし、賑やかしとか、マッチングをやってらっしゃる。努力してもそのぐらいかと思う。

- その三鷹でやっているマッチングみたいなことも、府中市でもやっているのか。
- ➡ やっていない。
- マッチングというのは、結婚相手を見つけるみたいですね。
- マッチングするのは、事業をする為に条件があるのですが、ただ基本は、お金と場所が必要ですね。それらが、ある程度揃わないと、始められない。
- 府中市がらみの府中市の利益になるようなNPOも、ここってということだって考えられると思う。学習センターに場所を置いても良いと。
- ➡ 文章を統計して頂ければ。
- 先ほど出た、色々公会堂だ、空き室だ、託老所とかありましたが、やはり場所だけでは動いていけない。やはりそこで誰かが動かなくてはいけない。そろそろお時間になってきましたが、みなさん宜しいでしょうか。それでは、最終答申の内容検討について自由なご発言頂けましたけど、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

## 7 その他

次回審議会について

第5回 9月27日(月) 午後3時～5時

生涯学習センター 1階会議室

審議会終了後、懇親会を予定。